

国語

Japanese Language

国語科は、児童生徒の生活において必要な国語の特質について理解し、互いの立場や考えを大切にしながら適切に表現する力、言葉を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を身に付け、言葉がもつよさを認識し、言語感覚を豊かにしていく教科です。

そのためには、様々な場面や状況において課題を見だし、その解決に向けて、意識的に言葉のもつ意味やつながりに着目させ、言葉の特徴や使い方等を理解させるとともに、多様な言葉を使って自分の思いや考えを広げ深める学習を、指導事項の系統を重視し、繰り返しながら進めることが大切です。なお、国語科で身に付けた力は、各教科等における言語活動を充実させることにもつながります。

【国語科のページで使用されている用語解説】

言語活動	単元を通して、資質・能力を身に付けさせるために設定する学習活動のこと。児童生徒の「知りたい」「やってみたい」という思いを高め、明確な相手意識や目的意識をもって取り組める、必要感のある活動であることが重要である。
言語感覚	相手や目的、状況などに応じて、どのような言葉で表現するのが適切であるかを直感的に判断したり、話や文章を理解する際、そこで使われている言葉が醸し出す味わいを感覚的に捉えたりすること。
考えの形成	各領域の学習を通して、既存の知識や様々な経験と結び付けながら、自分の考えをまとめたり、広げ深めたりすること。
共有	互いの意見や考え、表現のよいところを認め合ったり、比較して共通点や相違点に気付いたりすることを通して、自分の考えを広げ深めていくこと。
一般化	単元を通して学んだことを単元内でとどめずに、他の学習や日常の場面で活用できるものにする。

1 単元のつくり方

国語科では、第1章の2で示すAパターン単元の構想が基本となります。「つかむ」過程では、児童生徒の実態や既習事項等を踏まえ、必要感のある言語活動を単元の課題として設定し、「追究する」過程では、単位時間ごとに、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を相互に働かせながら、課題解決に向けて学習を積み重ねます。そして、「まとめる」過程では、単元を通して何をどのように学んだのかを再確認し、一般化させることで、言語感覚を養わせます。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○「話したい・聞きたい・書きたい・読みたい」といった気持ちが高まるよう、必要感のある言語活動を単元の課題として設定する。

○「身に付けさせたい資質・能力」を明確にした上で、単元全体の学習の見通しをもたせる。

○単元の課題と単位時間のつながりを考え、本時が何のための時間であるかを明確にした上で、単位時間ごとのめあてを設定する。

○個で考える時間を確保し、児童生徒がめあてに対する考えをもった上で、目的を明確にした交流活動を行い、学びに広がりや深まりをもたせる。

○交流活動を通して学んだことを、学級全体で共有する時間を設定する。

○単位時間の児童生徒の学習状況や振り返りを見取りながら次時の学習につなげていく。単位時間の学習を積み重ねることでゴールの姿に近付いていることに気付かせる。

○単元全体を通して、「何ができるようになったか」「どうしたらできるようになったか」「何をどのように学んだのか」等を考えさせる。

○今後の学習や日常生活で生かせそうな場面を考えさせるとともに、言葉のもつ力やよさを再認識させる。

○身に付けた資質・能力については、新たな学習の課題を把握する場面等で、既習事項として活用させる。

過程と基本的な学習活動

1 単元の課題を把握する。

◇教材文やモデル文等と出会い、単元の学習に興味や関心をもつ。

【単元の課題】
〈必要感のある言語活動〉

◇既習事項や実生活の体験等を想起しながらゴールの姿に向かうための大体の流れをつかむ。

つかむ

2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

単位時間

【めあてをつかむ】

◇各単位時間のめあてに対して、個で考える。
◇ペアや少人数での交流活動を行い、互いの考えを伝え合う。

◇学級全体で、各グループの交流活動で出された意見や考えについて確認し合い、新たな気付きをもつ。

【まとめ・振り返りをする】

単位時間

単位時間

単位時間

追究する

3 単元の学習を振り返る。

◇単元の課題について、学ぶ前と後との変容を自覚するとともに、今までの学習のポイントを学級全体で共有する。

◇学んだことを、他の学習や日常生活でどのように活用できるかを考える（一般化）。

単元全体の振り返り

まとめる

小学校 第4学年【読むこと】 『一つの花』（全8時間計画）



【目標】

叙述を基に想像したことを伝え合う活動を通して、場面の移り変わりと結び付けながら、登場人物の気持ちを具体的に想像することができるようにする。

1 単元の課題を把握する。

- ◇題名の意味を考えながら、教師の範読を聞く。
- ◇初発の感想をまとめ、疑問を出し合う。

【単元の課題】 場面の移り変わりに着目して、父の気持ちについて想像したことを、友人と伝え合おう。

- ◇今まで学習した物語文を思い出し、登場人物の気持ちの変化や場面の移り変わりに着目して読み進めていくための見通しをもつ。

2 単元の課題の解決に向け、追究する。

①戦中や戦後の場面の移り変わりを捉える。

戦争中は、おやつどころではなく、みんなが貧しくいつもお腹を空かせていることが分かった。最後、一輪のコスモスが、いっぱいのコスモスに変わったところが心に残った。

②父のゆみ子に対する思いを捉える。

父が「めちゃくちゃに高い高い」したのは、戦争中で食べ物をあげたくてもあげられない辛い気持ちがあったからだと思う。

③第3場面から、父の存在を表す言葉を探して、父が残した思いを想像する。

いっぱいのコスモスになったのは、ゆみ子の幸せをお父さんが喜んでいられるのかもしれない。

④父はなぜ一つの花をゆみ子に渡したのかについて、自分の考えを伝える。

自分はいなくなってしまうけど、ゆみ子の成長を見届けたいという思いが込められているのだと思う。

3 単元の学習を振り返る。

- ◇互いの考えのよい点を伝え合い、全体で確認し合う。
- ◇物語文を読む時のポイントを発表し合い、全体で共有する。
- ◇本学習がどんな場面で活用できるかを考え、単元全体の振り返りをする。



場面の移り変わりと結び付けて登場人物の気持ちを想像したことで、作者の作品に込めた思いがより伝わったような気がした。他の本を読む時も、場面の移り変わりに気を付けて読んでみたい。

中学校 第3学年【書くこと】 『投書文を書く』（全6時間計画）



【目標】

投書文を書く活動を通して、記事を適切に分析・選択したり、構成や論理の展開を工夫したりして、自分の思いを説得力のある文章で書けるようにする。

1 単元の課題を把握する。

- ◇東京オリンピック招致のWebの文章、リオデジャネイロオリンピック開催中の新聞記事から、オリンピックに込められた人々の思いについて触れる。

【単元の課題】 客観性や信頼性のある情報を例に挙げて、東京オリンピックへの自分の思いを「15歳の声」として、新聞に投書しよう。

- ◇意見文の学習を思い出しながら、投書文の特徴を確認するとともに、説得力のある文章を書くための見通しをもつ。

2 単元の課題の解決に向け、追究する。

①観点を設定し、複数の記事から二つを選択する。

投書文を書く目的を考えると、共感できたり驚いたりする記事を選択した方がいいと思う。

②二つの記事の関連性を考える。

共通する言葉や内容を結び付けることで、伝えたいことが絞れたと思う。

③記事の内容に対する自分の考えが、読み手に伝わるように投書文を書く。

記事の内容と自分の思いや経験等を結び付けて書くことで、自分の考えが明確になり、説得力のある文章になった。

④構成や論理の展開に着目して推敲する。

説明的な文章で学習した例示の順番を思い出して推敲した。何度も読み返して、紹介する記事の順番を変えることにした。投書文でも提示する順序が大切だと分かった。

3 単元の学習を振り返る。

- ◇観点を基に、完成した投書文を読み合い、互いのよさを認め合う。
- ◇自分の表現に生かせるポイントを見つけ、今後の生活で活用できる場面を考え、単元全体の振り返りをする。



伝える相手や目的、他の記事との関連を意識することで、一つの記事でも引用する部分が異なることが分かった。二つの記事を関連付けたことで説得力が高まったので、今後文章を書く際に役立てたい。

2 単位時間の作り方（「つかむ」過程）【例】

「つかむ」過程では、児童生徒にとって必要感のある言語活動を通して、単元の課題をどのように解決していくかについて見通しをもたせるとともに、単元の課題解決に対する意欲を高めさせます。

【指導のポイント】

【必要感のある言語活動】

※単元の課題の立て方

○どのような資質・能力を、どのような言語活動を通して身に付けさせるかを明確にする。

- 【 A 】をして（～ができるように）、
【 B 】をする。
A → (1) 指導事項から身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
B → (2) 言語活動例を参考に児童生徒の実態に合った言語活動を設定する。

※学習指導要領解説国語編 付録4「系統表」を参照

〈例〉

- ◆「事例を挙げて相手に分かりやすく伝えるように、学校生活の楽しさをスピーチしよう。」
- ◆「図表やグラフを効果的に使って、自分の考えを伝える環境ポスターを作ろう。」
- ◆「登場人物の設定や物語の展開の仕方に着目して、『故郷』の魅力を伝え合おう。」

○児童生徒によっては、活動することを目的と捉えてしまう場合がある。教師は、活動を通してどのような資質・能力を身に付けさせるのかを改めて確認する必要がある。

【単位時間をつなげる見通し】

○単元構想を基に、単元の課題解決のために必要なことを児童生徒に発問し、出された言葉をつなげて見通しをもたせる。

〈児童生徒から言葉を引き出す発問の例〉

- T:「この説明文にはどんな特徴がありますか？」
S:「図表や写真が多く載っていると思います。」
T:「図表や写真を載せる意味はあるのでしょうか？」
.....
T:「インタビューをする時に注意することは何ですか？」
S:「相手に聞き取りやすい声の大きさと速さです。」
T:「今回は、来月に行われる運動会の紹介をします。」
S:「だれにどんなふうに紹介するかな？」…

【「つかむ」過程のまとめ・振り返り】

○単元の課題と学習の見通しから、「…することが楽しみだ」「…ができるかどうか不安だけど、頑張ってみよう」といった、課題解決に向けての記述や発言をさせることで、「追究する」過程の学習への意欲付けを図る。

基本的な流れ

1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を把握する。

- 既習事項や実生活での体験等を想起させたり、映像や写真など視覚教材を利用したりして、本単元の学習への興味・関心を高めさせる。
- 教科書等の教材文や表現活動を提示する。
- 単元の課題を把握させる。

【単元の課題】

〈必要感のある言語活動〉

- 単元を通して、表現物を作成したり、発表会をしたりする場合は、ゴールの姿をモデルとして示し、イメージさせる。

2 本時のめあてをつかむ。

- 本時は、単元の課題を理解し、どのような学習をしていくか見通しをもつことがめあてであることを伝える。

【めあて】

3 単元全体の学習の見通しをもつ。



- 児童生徒とやりとりしながら、既習事項を想起させ、単元の課題を解決するために必要なことを考えさせる。
- 学習の大体の流れをつかませ、見通しをもたせる。（学習内容によっては、学習計画表等を提示する場合もある。）

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 単元の課題と学習の見通しについて、全体で確認させる。
- 課題に対する思いや意気込み等を、記述や発言するように促す。

単位時間の振り返り

※単元の課題を把握した後、既習事項を想起したり、教材文を読んで各自の疑問や感想をまとめたりする時間を多くとる場合は、「つかむ過程」の学習を複数の時間で行うこともあります。

小学校 第3学年【話すこと・聞くこと】 『つたえよう、楽しい学校生活』

【ねらい】

学校生活の楽しさを伝えるDVDを作成する計画を立てる活動を通して、学習の見通しをもつことができるようにする。



1 教材文と出会い、単元の課題を把握する。

- 教科書を読み、本単元は、学校生活の様子を紹介する学習であることを伝える。
- 他校の学校紹介動画やパンフレットを提示して、学習のイメージをもたせる。

みなさんだったら、どのような学校生活の様子を伝えたいですか？だれに紹介しましょうか。紹介する方法もいろいろありますね。



【単元の課題】

役割を決めて話し合い、互いの意見をまとめて、楽しい学校生活を紹介するDVDを作ろう。

2 本時のめあてをつかむ。

【めあて】

学校生活の楽しさを伝えるDVDを作るために必要なことを話し合い、学習計画を立てよう。

- もう一度、他校の学校紹介動画を見せながら、計画を立てる際のポイントになる部分を確認させる。

3 単元全体の学習の見通しをもつ。

- 既習事項を想起させたり、教科書を参考にさせたりしながら、DVDが完成するまでの見通しを各自に考えさせる。
- 教師の司会により、学級全体で話し合いをして、学習計画を大まかにつかませる。



DVDを完成させるまでに必要なことを発表してください。



グループで作るのだから、だれが何を話すのかを決めないといけないと思います。

撮影する前に練習をしないとね。アドバイスもほしいな。



〈活動の大まかな流れ〉 ①話題（テーマ）を決める→②材料を集めて選ぶ→③話の構成と役割を考える→④練習してアドバイスをもらう→⑤撮影する→完成

どの活動も話し合いが必要になりますね。みんなの考えを出し合って、DVDを完成させていきましょう。

- 地域の人にどんなことを伝えたいか、グループごとに話し合いをさせ、学級全体で共有させる。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- グループごとにどんな内容を伝えたいのかを確認させる。
- 本単元の言語活動と学習の見通しについて確認して、本時の振り返りをさせる。

私たちのグループは、団競技で盛り上がる運動会を紹介しようと思う。地域の人に学校の楽しさが伝わるように、みんなで話し合っていきたい。DVDを見た人が運動会に来てくれるといいな。



中学校 第1学年【読むこと：説明的な文章】 『食感のオノマトペ』

【ねらい】

身近にあるオノマトペを出し合う活動を通して、課題解決の見通しをもつとともに、オノマトペに対する関心を高められるようにする。



1 教材文と出会い、単元の課題を把握する。

- 教科書（教材文）を読み、初発の感想をもたせる。
- 本単元は、教材文に書かれた内容を実感し、自分の考えを説明する学習であることを伝える。

【単元の課題】

必要な情報に着目しながら筆者の考えを捉えて、オノマトペの効果を自分の言葉で説明しよう。

- オノマトペの効果を説明するために、「オノマトペ・テロップ」(右)を作成することを伝える。
- 教師が「オノマトペ・テロップ」を実際に使って発表し、ゴールの姿のイメージをもたせる。



2 本時のめあてをつかむ。

【めあて】

教材文を読み、身近にあるオノマトペを出し合って、学習の見通しをもとう。

- 教材文を読み、「オノマトペ」の意味や筆者の考えを捉えさせる。
- 身近なところに、どのようなオノマトペがあるかを考えさせる。

オノマトペは、私たちが普段から使っている言葉だと分かりますね。会話だけでなく、CM等にもたくさん出てきますね。



オノマトペの例
・サクサク・もちもち
・バリバリ・パリパリ
・グニャッ・ベチヨッ
など

3 単元全体の学習の見通しをもつ。

- 筆者の考えを踏まえた上で、「オノマトペ・テロップ」を作成することを伝える。
- 既習事項を想起させ、「オノマトペ・テロップ」を作成するためにどのような学習が必要であるのかを考えさせる。
- 活動の大まかな流れを提示し、単元全体の学習のイメージをもたせる。

〈活動の大まかな流れ〉

- ①身近なオノマトペを出し合う
- ②図表と文章の関係を理解し、要旨を捉える(教材文)
- ③紹介するオノマトペを選び、テロップを作成する
- ④発表する
- ⑤自分の考えをまとめる

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- オノマトペの意味と教材文の筆者の考えについて、自分の言葉で確認させる。
- 本単元の言語活動と学習の見通しについて確認して、本時の振り返りをさせる。

私たちの身近には、オノマトペがたくさんあることがあらためて分かった。でも、今までオノマトペにどのような効果があるのかを考えたこともなかった。教科書にある食べ物以外のオノマトペについても調べてみるとよいかもかもしれない。



2 単位時間の作り方(「追究する」過程)【例】

「追究する」過程では、単元の課題の解決に向けて、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を相互に働かせます。指導事項を螺旋的・反復的に繰り返しながら学習することで、資質・能力を定着させるとともに、課題を解決する力を蓄えていることを実感させながら、ゴールの姿に近付けるようにします。

【指導のポイント】

【めあての設定】

- 単元の課題の解決に向かうステップとして、単位時間のつながりを意識させながら、本時で解決すべきことや本時の大まかな学習の流れを明確にさせる。

〈例〉【単元の課題】

説得力のある根拠を使って、自分の意見を伝えよう！

- ①: モデル文を読み、説得力のある文章を書くポイントを考える。
- ②: 集めた情報から説得力のある根拠を探す。
- ③: 自分の考えと根拠のつながりを検討する。
- ④: テーマに沿って意見文を書く。
- ⑤: 互いの意見文を読み合う。 (○数字は単位時間)

【効果的な交流活動】

- 交流活動の目的と観点を明確にさせる。

〔目的〕(何のための交流活動か?)

- 例
- ・自分の考えを確認する
 - ・互いの考えを認め合う
 - ・考えを広げたり深めたりする
 - ・考えを一つにまとめる
 - ・よりよい考えを生み出す

〔観点〕(どんな視点で交流するのか?)

- ・身に付けさせたい資質・能力を基にする。
- ・児童生徒の言葉を使って提示する。

- 発表の順番を決めたり、役割を分担したりするなど、方法を具体的に示すことで、多くの児童生徒に発表等の機会を与える。
- 目的に応じて、色ペンや付箋紙、ミニボードなどを活用する。
- 発表の際、「他の班との共通点(相違点)は何ですか。」「どの班の考えと似ていますか。」「全ての班の主張をまとめるとどうなりますか。」等、発問を焦点化する。

【「追究する」過程のまとめ・振り返り】

- 振り返りの内容は、指導事項に沿った観点を提示する。児童生徒の実態に応じて、記述・発言させる。

〈振り返りの観点の例〉

- a 何を学んだのか(何ができるようになったか)
- b どのように学んだのか(どうしたらできたのか)
- c 新たな疑問やさらに学習したいこと

※観点ごとにまとめさせても、自由にまとめさせてもよい。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- ノートやワークシートの記述等から、前時までに学んだことを想起させる。
- 学習計画表等を活用するなど、現段階の学習状況と単元における本時の位置付けを確認させる。

【めあて】

2 課題を追究するために個で考える。

- 本時のねらいを明確にした上で、思考を促す発問を行い、児童生徒から多様な考えを引き出す。
- 個で考える時間を確保し、自分の考えをもたせる。

【多様な考えを引き出すポイント】

3 グループや全体で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気付きをもつ。

- 必要に応じて、ペアや少人数での交流活動を設定し、交流活動の目的や方法、交流の観点等を確認させる。
- 観点を基に、互いの意見を交流させ、考えに広がりや深まりをもたせる。
- 各グループで出された話題や考えの共通点や相違点を全体で確認し、課題の解決に迫らせる。



4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 板書やノート、ワークシートを基に本時の学習を振り返らせ、本時のめあてと照らし合わせて、自分の言葉でまとめさせる。
- ペアやグループ、全体で、発表するように促す。
- 今までに学んだこととつなげさせたり、新たに学んだことを自覚させたりしながら、単元の課題の解決に近づいていることに気付かせ、称賛する。

単位時間の振り返り

【多様な考えを引き出すポイント】

教師の発問は、授業において、児童生徒の思考のきっかけを作ったり思考を深めたりするために、重要な役割を果たします。既習事項や教材文に書かれていることを確認する発問だけでは、一問一答のような授業になってしまいます。一方、思考を促す発問で答えを出し合っただけでは、何を学んでいるのかが曖昧になってしまいます。考えを広げ深めていくためには、児童生徒の学習状況、授業の場面を踏まえて、いくつかの発問を効果的に組み合わせることが大切です。

(例)



『大造じいさんとがん』の主人公はだれだと思いますか？

…思考を促す発問



「大造じいさんだと思います。この物語の最初から最後まで登場していて、大造じいさんの気持ちがたくさん書かれているからです。」



「ぼくは、大造じいさんと残雪の両方だと思います。なぜかという、ふたりの戦いと友情の物語だから、どちらがいなくても物語は成り立たないからです。」



？(どちらも理由を述べているわ…？どちらも正解…？どうしよう…？)



「ところで、主人公とはどのような人物のことをいうのでしょうか？」

…確認する発問



「題名に書かれている人」「その人の視点で書かれている」「物語の中心で行動していた人」



「心情が一番変化した人」「人じゃないこともあるよ」…

※主人公の定義を既習事項を踏まえながら学級全体で共有させる。



「今、みなさんで確認したことを踏まえて、もう一度読み直してみましょう。」

※読む観点を与えて再度読む機会を設けることで、考えに深まりをもたせる。

○各領域における指導のポイントを踏まえて授業を構想するとともに、各領域同士の学習の関連（単元と単元のつながり）も意識して構想していくことで、資質・能力の確実な定着を図らせる。

「A 話すこと・聞くこと」

- モデルを示し、話す側、聞く側等の立場に立って、ねらいに沿った観点到気付け、共通理解させる。
- 一度体験（発表、話し合い等）して終わるのではなく、振り返りを生かして、改善できたことが実感できるような場面を作るなど、単元構成を工夫する。

【発問例】

- ・だれにどのようなことを伝えたいですか。
- ・どのような順序で話すのが効果的ですか。
- ・提示する資料をどのように活用しますか。
- ・「○○」という言葉は聞き手は理解できるでしょうか。
- ・話し手はどのようなことに気を付けて話しているのでしょうか。
- ・話し合いで出された意見の共通点は何でしたか。



「B 書くこと」

- モデル文から意見文や批評文、案内文、紀行文等の特徴に気付かせたり、既習事項から活用できることを確認させたりする。
- 推敲は、観点を基に修正の方法を確認するなどして、誤字脱字等の確認のみにならないようにする。

【発問例】

- ・読み手はテーマについてどの程度知っているのでしょうか。
- ・事実と意見の違いを分かりやすく説明してみましょう。
- ・どちらの根拠を示した方がよいでしょうか。
- ・問い掛けの文を最初に書いたのはなぜですか。
- ・文末を変えることによって印象はどのように変わりますか。
- ・「○」を「△」の表現に変えたのはなぜでしょうか。

「説明的な文章」

- はじめから順番に読んで展開を確認したり、結論を捉えてから必要な情報を見付け全体の構成を考えたり、図表や写真と叙述を結び付けたりするなど、様々な読み方を指導する。

【発問例】

- ・第○段落はあった方がいいですか。それはなぜですか？
- ・筆者は、なぜ、○○の実験をしたのでしょうか。
- ・○○を表す言葉を使って、写真の様子から分かることを説明してみましょう。
- ・本文の「○○のようなもの」は他にどのようなものがありますか。
- ・第○段落の要旨を○○という言葉を使って60字以内で書いてみましょう。
- ・この文章を読んで、どの部分に共感したり納得したりしたか、自分の意見を書いてみましょう。

「C 読むこと」

- 登場人物の言動、心情、色、音、においなどの叙述や表現技法を手掛かりにして、具体的に想像させる。
- 複数の場面や人物を取り上げて、共通していることや違うこと、変化したことやその理由等を考えさせる。

【発問例】

- ・○○はどうして笑ったのか、これまでの○○の行動から想像して考えてみましょう。
- ・○○の言葉「□□…」の「…」にはどのような言葉が入るか、○の行動や様子から考えてみましょう。
- ・○○の気持ちが一番変わったのはどこですか。
- ・この物語の特色（面白さや特徴）はどのように印象が違いますか。
- ・最後の一文があるとないでは、どのような違いがありますか。
- ・○○の行動や考え方について、自分の体験と比べて考えてみましょう。



中学校 第1学年【話すこと・聞くこと】 『質問力を磨こう』



【単元の課題】

目的に応じた効果的な質問を考え、友達のことを深く知るインタビューをしよう。

【ねらい】

質問の種類を考えながら質問し合う活動を通して、必要な情報を的確に聞き出す質問を考えられるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時のワークシートや教科書から、質問には目的によっていくつかの種類があったことを想起させる。
- いくつかの質問を組み合わせたインタビューを例示し、質問の答えを考えさせる。

【めあて】

同じテーマで質問し合って、効果的な質問の種類と使い方を考えよう。

2 課題を追究するために個で考える。

- テーマに沿って、友達に質問したいことを考えさせる。教科書を参考にしながら、質問の種類や順番を工夫するよう指示する。

テーマは「友達の楽しい時間や好きな時間」です。

友達がどのように答えるかを思い浮かべて、どの種類の質問をどんなふうにつなげていくか考えてみましょう！

「はい・いいえ」の質問ばかりになってしまうな。



「ない」って答えられたら、その後が続かなくなってしまうよ。

3 友達との交流で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気づきをもつ。

- グループで【役割分担】にしたがって、質問をし合わせる。
- 【チェック表】を基に、質問者が考えた質問が効果的であったかをグループで評価させる。

予想外の答えが返ってきて困ったよ！

最初の質問だけけど、何て答えたらいかが悩んだわ。

2つ目の質問で、興味があると答えたのだから、もっと引き出せたとと思うよ。

【役割分担】

- ① 質問者 1名
- ② 回答者 1名
- ③ 観察者 1～2名
- ※ 質問 3分、アドバイス 2分を目安に役割をローテーションする。

【チェック表】

- (回答者)
- ・ 分かりにくい質問や答えにくい質問はなかったか。
- (観察者)
- ・ 回答者の考えを引き出す質問をしていたか。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 交流活動を通して、質問の仕方について分かったことをワークシートにまとめさせ、ポイントを板書して共有させる。
- 次時、実際に友達にインタビューをすることを踏まえ、本時の振り返りをする。

質問の種類だけでなく、順番や内容も考えることが大切だと分かった (a)。インタビューをした友達の感想を聞いたので、予想外の答えが返ってきた理由が分かったし、どのような質問だったら答えやすかったのかも分かった (b)。次回は考えを引き出す質問を上手に取り入れていきたい (c)。



中学校 第2学年【書くこと】 『意見文を書く』



【単元の課題】

説得力のある根拠を示して、みんなが過ごしやすい学校生活を提案しよう。

【ねらい】

適切な根拠にするためのアドバイスをし合う活動を通して、より説得力のある意見文を書くことができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- ノートの記述や教科書から、前時は自分の意見を支える情報を収集し、適切な根拠の観点について学んだことを想起させる。
- 学習計画表を基に、本時の学習を確認させる。

【めあて】

適切な根拠にするためのアドバイスをし合い、より説得力のある意見文にしよう。

2 課題を追究するために個で考える。

- 前時に収集した複数の情報の中から、観点を基に、自分の意見を支える根拠となる情報を取捨選択させる。
- 選んだ根拠を取り入れて意見文の構成を考えさせる。

読み手が納得できる根拠とは、どのようなものだったでしょうか。



【適切な根拠の観点】

- 信頼性 (出典)
- 実体験、見聞
- 具体的な数値、声



新聞記事を引用するのなら、信頼性があるし、数値が入っている情報も説得力がありそうだ。

※前時に確認した観点

3 友達との交流で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気づきをもつ。

- ペアで互いの意見文を読み合い、2の【適切な根拠の観点】を基に、読み手が受けるイメージを伝え合わせる。
(※この交流を違うペアで数回繰り返して行わせる。)
- 自分の意見文に取り入れられそうなポイントを考えさせる。

読み手が興味をもちそうな複数の情報を選んでいるから、広く共感を得られそうだね。



思いは強く伝わってきたけど、個人の感想になってしまっているから、相手を納得させるのは難しいよ。



具体的にどのように直せばよいかを伝えようと、推敲するのに参考になりますね。



アンケートを根拠にしたのはいいけれど、都合のいい部分だけを使っているから、反対意見についても触れて、反論を考えておくと、より説得力が増すと思うよ。



4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 意見文を読み合ったことで、根拠について分かったことをノートにまとめさせ、ポイントを板書して共有させる。
- 次時、本時に確認したポイントを取り入れて意見文を推敲することを踏まえ、本時の振り返りをさせる。

交流を通して、具体的にどのように修正すればよいか自分では気付かない考えを聞くことができてよかった (b)。信頼性がある情報でも、読み手にとってどの情報が分かりやすいかを考える必要があることが分かった (a)。清書では反論を意識して書きたい (c)。



小学校 第6学年【読むこと：文学的な文章】 『やまなし』



【単元の課題】

作品の場面を具体的に想像して、作品から伝わるメッセージについて討論をしよう。

【ねらい】

「五月」と「十二月」の場面で想像したり解釈したりしたことを対比し、共通点や相違点を話し合う活動を通して、自分なりの考えを広げられるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- ノートの記述から、前時は、「五月」と「十二月」の場面がもつイメージについて、叙述から想像したことを想起させる。
- 本時の学習のめあてを提示し、教材文を一読させる。

【めあて】

「五月」と「十二月」のイメージをつなげて、『やまなし』から伝わるイメージについて考えよう。



こわい場面とうれしい場面の二つのイメージが、どのようにつながるのか、みんなはどう思っているのだろうか？

2 課題を追究するために個で考える。

五月と十二月には、どのような関係があるのでしょうか？



- 個で考える時間を確保するとともに、児童の様子を見ながら、個別（もしくは全体）にアドバイスをする。



五月は「光の黄金のあみ」、十二月は「青白いほのお」というように、どちらも水と光の美しさが表現されている。小さなカニから見た、水の世界の様子や様々な気持ちが伝わってくる気がする。

外から来る「かわせみ」や「やまなし」にカニの兄弟がおどろいているのに、どうして「やまなし」の方だけが題名になっているのかな。



3 友達との交流で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気付きをもつ。

- ペアで互いの考えを伝え合い、各グループで出た考えの共通点や疑問点等を確認し、全体で課題に迫らせる。
※共有した後、主題に迫る児童の疑問を取り上げる。

○班の発表にあった、「なぜ、十二月にしか登場しない『やまなし』が題名なのか」という疑問をみなさんで考えましょう。



五月は恐怖、十二月は喜び。十二月の方が大切だから、『やまなし』という題名なのかな。



じゃあ、五月の場面はなくてもいいということ？



そうじゃなくて、五月の恐怖があったからこそ、十二月の喜びをより強く感じられるのではないかな。

- 発表された考えを整理し、それらを踏まえて自分の考えをノートにまとめさせる。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 本時の授業で分かったことや新たな疑問等について、板書して共有させる。

『やまなし』が伝えたいことは、平和なくらしのありがたさだと思います。理由は、五月の恐怖があったからこそ、やまなしを追いかけているときの何気ない会話が幸せに感じると思うからです（a）。二つの場面を比較したり、カニの目線になったりして考えたら分かりました（b）。討論会でみんなの考えを聞くのが楽しみです（c）。



小学校 第4学年【読むこと：説明的な文章】 『アップとルーズで伝える』



【単元の課題】

説明の仕方の工夫について考え、クラブ活動のよさを3年生に伝えよう。

【ねらい】

段落相互の関係に着目しながら、考えとその事例の関係をとらえる活動を通して、事例を使って説明することのよさを理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- ノートの記述から、前時は、教材文を読んで、写真と文章を結び付け、全体から問いの文を見つけたことを想起させる。
- 本時の学習のめあてを提示し、教材文を一読させる。

【めあて】

筆者の考えに着目して、説明の仕方の工夫を見付けよう。

2 課題を追究するために個で考える。

⑥段落の役割は何か、考えてみましょう。



⑥段落のはじめに、「このように」ってまとめの言葉があるから、筆者の考えをまとめている段落だと思う。



③段落の問いの答えになっているんだね。でも、最後ではなくて、途中にあってもいいのかな。

⑥段落の内容をもう一度みなさんで読んでみましょう。



「このように」の後の、「伝えられることと伝えられないこと」という意味がちょっと分からないな。⑥段落は③段落をまとめているというのは正しいと思うのだけど…

③と⑥段落の間の段落にヒントがあるかもしれませんね。



3 友達との交流で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気付きをもつ。

- ④段落と⑤段落を再度読み直し、各自の考えをもたせる。
- それぞれが気付いたことを伝え合い、グループの考えを整理させる。



④段落も⑤段落も、それぞれ写真があって分かりやすい。説明の仕方も同じような…



確かにそうだね。最初に写真の説明をして、「伝えられること」を書いて、そのあと、「しかし」「でも」を使って、「伝えられないこと」が書いてあるよ。



- それぞれのグループで出された考えを板書でまとめ、「説明の仕方の工夫」について学級全体で共有させる。

たくさんのことに気付きましたね。2つのものを比べて違いをはっきりさせることを「対比」と言います。



4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 説明の仕方の工夫について分かったことなどを、自分の言葉でノートにまとめさせ、板書して共有させる。

説明の仕方の工夫として、写真を見せること、対比を使って説明することがあるのが分かった（a）。④段落と⑤段落で写真と文章を比べて見ることで、筆者の伝えたいことがはっきりしてきた（b）。卓球クラブの活動を伝えるときは、写真や対比を使ってみたいと思う（c）。



2 単位時間のつくり方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、単元を通して課題解決してきたことを振り返らせ、「何ができるようになったか」「どうしたらできるようになったか」等を自覚させ、他教科や日常生活のどのような場面で活用できるかを考えさせることが大切です。

【指導のポイント】

【学びの自覚】

- 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を基に、具体的な観点を提示して、振り返らせることが大切である。特に、成果物を作成した場合、見た目の善し悪しで自己・相互評価をしないように注意する。
- ②では、「自分は何ができていて、何ができていないのか」に気付かせ、言葉に対して意識的に着目できるようにする。
- ③では、各単位時間の振り返りの記述等を参考に、児童生徒の言葉で記述させ、全体で「何をどのように学んだのか」を確認させる。

【学んだことの一般化】

- 単元を通して学んだことが、他の場面でも活用できることを自覚させる。

〈一般化の例〉

- ・今度、理科の自由研究のレポートをまとめるときは、複数の事例を挙げてみよう。
- ・宮沢賢治の他の作品も「たとえ」が使われているのかな。図書館で探して、読んでみたいな。
- ・これから面接があるけれど、自分の思いがしっかり伝わっているかどうか、相手の反応を見ながら受け答えをしないといけないな。

- 児童生徒の発言に対して、「もう少し具体的な場面をイメージしてみましょう。」「どうしてその場面で使えると思ったのですか。」等の問い掛けを行い、さらに考えを引き出すことで一般化につなげさせる。
- 同じような考えの児童生徒に聞いたり、全体に投げ掛けたり、分かりやすい言葉に置き換えさせたりする。

【単元全体の振り返り】

- 単位時間の積み重ねによって単元の課題が解決できたという視点をもって、自分の学びや成長を自覚させるようにする。
- 自分の考えを形成したり、友達と伝え合ったり、新しい考えを生み出したりする言葉のよさを意識させ、児童生徒の言語感覚を磨いていくようにする。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 本時は、単元全体を振り返ることがめあてであることを伝える。
- 単元の課題を解決するために、今まで取り組んできた学習について振り返らせる。

【めあて】

2 単元で学んだことを確認する。

- 今まで学習してきたことを基に、
 - ①自分のノートや成果物、各単位時間の振り返りの記述等を確認させることで、学ぶ前と後との変容を自覚させる。
 - ②互いのノートや成果物等について、それぞれのよさを伝え合う交流活動を行うことで、自分のよい点や課題点を再認識させる。
 - ③今までの学習を振り返らせ、「どのように学び、何ができるようになったか」について発表させ、ポイントを板書し、全体で共有させる。



3 学んだことを一般化して理解する。

- 学んだことが日常生活や他教科でどのように活用できるのか、具体的にイメージさせる。
- イメージした場面を全体で確認し合い、学びの広がりを実感させるとともに、新たな学びへの意欲につなげさせる。

4 単元全体の振り返りをする。

- 単元全体を通して、学んだこと（成果と課題）や感じたことを自分の言葉でまとめさせる。（全体で共有させる場があってもよい。）

単元全体の振り返り

小学校 第3学年【書くこと】 『気になる記号』



【単元の課題】

文章の構成の特徴に着目して、身の周りの気になる記号を報告する文章を書こう。

【ねらい】

単元全体を振り返る活動を通して、報告文を書くときに気を付けることが理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 本時のめあては単元全体を振り返ることだと確認する。
- 本単元では、身の周りにおける気になる記号について調べ、家の人に報告する文章を書いてきたことを振り返らせる。

報告する文章を書くとき、どのようなことに気を付けましたか？



【めあて】

単元全体を振り返って、報告する文章を書くときに気を付けることをまとめよう。

2 単元で学んだことを確認する。

- 互いの文章を読み合い、自分の書き方と比較しながら、「工夫が分かる点」「参考にしたい点」を付箋紙に書かせ、3～4人のグループで交流させる。
- ノートや振り返りの記述、完成した報告書をもとに、報告する文章を書くときに気を付けたことを思い出させる。

○報告文の組立て

- ① 調べたきっかけや理由
- ② 調べ方
- ③ 調べて分かったこと
- ④ 感想

気になる記号



3 学んだことを一般化して理解する。

- これから報告する文章を書くとき、今回学んだことがどのように生かせるか、意見を共有させる。



報告する文章を書くときには、調べて分かったことだけでなく、調べた理由や調べ方も書く。

調べたことをカードに記録して、比べたり種類分けをしたりして、伝えたいことをはっきりさせる。



- 他のどのような場面で、今回の学習が活用できるか考えさせ、共有させる。



社会科でスーパーマーケット見学がある。見学したことをまとめるとき、報告文の形が使えると思う。

「野菜作り」の記録も、報告文にまとめると分かりやすいよね。夏休みの自由研究のまとめにも使えそう。



4 単元全体の振り返りをする。

- 一般化したことを踏まえながら、単元を通して学んだことや感じたことを自分の言葉でノートにまとめさせる。

- 報告する文章の組立てが分かったので、これからも報告文を書くときは組立てに気を付けて書きたい。
- 山田さんの報告文は、おばあさんのことを考えて記号の説明が書いてあって、おばあさんが喜ぶと思った。
- 夏休みの自由研究のまとめを、報告文の形で書いてみようと思った。



中学校 第2学年【読むこと：文学的な文章】 『走れメロス』



【単元の課題】

作品の「視点」に着目しながら登場人物の言動の意味を考えて、『走れメロス』をリライトしよう。

【ねらい】

単元全体を振り返る活動を通して、「視点」に着目して作品を解釈するよさを理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 本時のめあては単元全体を振り返ることだと確認する。
- 前時は、ディオニスかセリヌンティウスの視点で『走れメロス』を書き直した（リライト）ことを振り返らせる。

【めあて】

単元全体を振り返って、作品と「視点」の関係について、学んだことや今後に生かすことをまとめよう。

2 単元で学んだことを確認する。

- リライトをした作品を互いに読み合い、「視点」について気付いたことをワークシートにまとめさせる。

どのようなことに気を付けて、「視点」を取り入れましたか？「視点」の学習をリライトにどう生かしましたか？



三人称で書かれた作品より、一、二人称で書いた方が面白いと思ったので取り入れた。



一人称を使って、人物の存在感を強調させて、三人称を使って、時間の経過や状況を補足してみた。

それぞれの特徴が生かされると、物語の奥深さが分かるのかもしれない。



3 学んだことを一般化して理解する。

- 「視点」について学んだことが、どのように生かせるか、意見を共有させる。



物語を書くときや読むときに生かせる！

これから作品を読むときに、視点を意識したら今までよりも楽しくなりそう。



もう少し具体的な場面をイメージしてみましょう。



一人称で書かれているところを見付ければ、登場人物の気持ちを深く理解できるよね。



視点に着目して読めば、作者が読者に何を伝えたいのか、その意図を理解することができるかもしれない。



いろいろな視点で作品を読むことで、今までとは違った作品の面白さを感じることにになりそうですね。

- 出された意見を板書でまとめ、学級全体で共有させる。

4 単元全体の振り返りをする。

- 一般化したことを踏まえながら、単元を通して学んだことや感じたことを自分の言葉でワークシートにまとめさせる。

- 視点が切り替わっているのを意識して読むと、登場人物の気持ちや物語のテーマが理解しやすくなるのが分かった。
- 物語を読む側から、書く側を体験したことで、これから本を読むときに別の楽しみ方ができると思った。



3 学習過程と教科書との関連

国語の教科書は、各領域の指導事項を押さえて題材が配列されているので、一年で学ぶべき内容が網羅されることとなります。その際、以下の各領域の留意点にしたがって指導を進めていきましょう。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」

- ◎「学習（活動）の流れ」に、ゴールの姿に向けての活動が段階的に示されている。それらを参考に、児童生徒の実態や学校行事等を踏まえながら何を表現させるのか（テーマ）を設定する。その際、学習過程のどこに焦点を当てて指導するのかを明確にする。
- ・児童生徒の作品（発表）例を参考に、活動や作成していくもののモデルとして示す。
 - ・単元末に示される「表現の仕方のポイント」等を参考に、実際の学習の過程を振り返らせ、再度児童生徒の言葉を使ってポイントをまとめさせる。



「読むこと」

- ◎単元冒頭の「目標」に、単元を通して身に付けさせたい資質・能力と言語活動が示されている。また、最後の「学習活動」等に、読みを深めていく設問や言語活動の手順等が示されている。それらを参考に、児童生徒の実態を踏まえて、単元全体を構想する。
- ・挿絵や図表等を活用して、場面や対象をイメージさせたり、叙述と結び付けさせたり、表現の効果を考えさせたりする。
 - ・教材文の出典や本の紹介から、著者や様々なジャンルの本に興味をもたせ、幅広い読書を勧める。



言葉の特徴や使い方に関する事項 ～言葉に対して自覚的になるような指導をしましょう～

脚注や漢字、コラム等、言葉に関する事項については、「話す・聞く、書く、読む」の学習活動を通して、自分の思いや考えをどのように言葉で表現するか、改めて言葉に着目し吟味させるようにする。（特定の事項を取り上げたりまとめたりして指導することもある。）

P14 参照



4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
文章を目で追いながら音読することが困難な場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこを読むのかが分かるように教材文を指等で押さえながら読むように促す。 ・行間を空けた拡大コピーや語のまとめりや区切りが分かるような分かち書きされたもの、読む部分だけが見える自助具（スリット）等を用意する。
自分の立場以外の視点で考えたり、他者の感情を理解したりするのが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活体験に関する例文や気持ちの移り変わりが分かる文章中のキーワードを示す。 ・気持ちの変化を図や矢印で視覚的に分かるように示す。
一定量の文字を書くことが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・手書きだけでなく、ICT機器を使って文章を書くことができるようにしたり、段階的なワークシートを用意したりする。
声を出して発表することに困難がある場合や人前で話すことへの不安を抱いている場合	<ul style="list-style-type: none"> ・紙やホワイトボードに書いたものを提示したり、ICT機器を活用したりして発表させるなど、多様な表現方法が選択できるようにする。
漢字の組み立てを理解するのが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の一部分を空欄にしたり、組み合わせで完成するようなカードを用意したりする。



〈スリット〉



〈ホワイトボードの活用〉



〈漢字のワークシート例〉

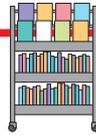
5 情報活用能力の育成

国語科の学習における情報とは…話や文章に含まれている内容（言葉）

〈例〉教材文（文学的な文章、説明的な文章等）、新聞や雑誌、書籍から引用した文章、自らが作成した原稿、他者との会話、話し合い等にある言葉



情報の収集



○話題（題材）の設定

- ・目的や意図に応じて、日常（社会）生活の中から話題や題材を決める。

○情報の収集

- ・情報の収集の仕方の手掛かりを知る。
（例）「キーワードをつかむ」「見出しに着目する」「題名・目次・索引を利用する」

○内容の検討

- ・複数の情報から、自分の伝えたいことを絞り込む。
- ・分からない言葉や内容に出ったら、辞書や事典で調べる。

P14 参照

問題解決における情報活用

情報の整理・比較



○共通・相違、事柄の順序

- ・相手と自分の考え、複数の情報から共通点や相違点を見付ける。
- ・目的を意識して必要な語句を判断し、書き留める。
- ・相手や目的、意図に応じて、提示する順序を考える。

○比較・分類、関係付けの仕方

- ・複数の情報を比べたり、共通点や類似点に基づいて類別したりする。
- ・複雑な事柄を分解して捉えたり、類似する点を基にして他のことを類推したりする。
- ・複数の語句を○や□で囲んだり、語句と語句を線でつないだりする。



○原因と結果、意見と根拠、具体と抽象

- ・様々な情報の中から原因と結果の関係を結び付けて捉えるようにする。
- ・意見と根拠の整合性に気を付けながら、収集した情報から相手に応じた適切な根拠を考える。
- ・具体と抽象の概念を理解し、状況や必要に応じて使い分ける。

〈相手に伝わるように自分の考えをまとめる〉

- ・「情報の整理・比較」に挙げた事項は、自分の考えをまとめる際にも活用できる。各領域と〔知識及び技能〕の指導事項とを関連させた授業を系統的・反復的に行うことが大切である。

〈例〉「根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わるように工夫すること〔書くこと〕」を指導する際、「意見と根拠の関係についての理解〔知識及び技能〕」との関連を図る。



基本的な操作〈例〉



○ローマ字の学習（小3 必修）

⇒キーボードでローマ字を用いた入力

○適切な本や文章を選ぶ学習

⇒情報通信ネットワークを使ったインターネットの閲覧

○辞書の学習

⇒電子辞書等の操作

○話すことの学習

⇒プレゼンテーションソフトウェアでの資料作成

⇒適切なファイル名やフォルダ名を付け、電子ファイルで保存

⇒プロジェクターの操作

情報の発信・伝達



〈相手に分かりやすく自分の考えを伝える〉

※「話すこと」の指導事項「表現」

- ・声の大きさや速さ
- ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方
- ・相手の反応
- ・提示資料の工夫
- ・資料や機器の効果的な活用
- ・場に応じた言葉の選択



〈例〉

発表の練習を小グループでする際、タブレット等を使って、自分の姿を振り返ったり評価し合ったりする。その際、話す側、聞く側、様子を見る側の立場になって評価し合うのも効果的である。



情報モラル・セキュリティ

- （例）・引用の仕方 ・出典の示し方
- ・情報の信頼性の確かめ方

6 地域の人材や物的資源の活用

多くの学校で、保護者や地域のボランティア団体の支援を受け、「読み聞かせ」や「ブックトーク」等の読書活動の推進を図っていると思います。その他にも、各地域には、「民話」「かるた」「方言」等に精通している方や戦争や昔の遊びなど、自身の経験を語ってください方もいます。また、アナウンサーや新聞記者、図書館職員、作家、書籍販売員、コピーライターなど、国語に関わる職業の方々もいます。



代表的な支援事業	事業内容と連絡先等
学習支援図書セット貸出 朝の読書セット貸出 等	児童生徒のさらなる読書活動推進を目的とし、各学校における教科学習や総合的な学習の時間等の教育活動を支援するため、図書セットの貸出を行います。 ※群馬県立図書館Webページアドレス： http://www.library.pref.gunma.jp/ ※地域の公立図書館等との連携も可能
書写指導支援事業	小中学校の書写指導の支援を目的とし、入門期の毛筆指導（書写道具の扱い方等）書き初めの指導等を行います。 ※群馬県書道協会Webページアドレス： http://www.gunmaken-shodoukyukai.com/
新聞講座 出前講座 等	新聞記者がゲストティーチャーとして学校に出向き、主に、「新聞の基礎知識」「新聞の読み方」「新聞編集」「メディア・リテラシー」などについてレクチャーをしています。 ※群馬県NIE推進協議会事務局（上毛新聞社 027-254-9933） ※各新聞社個別の対応も可能
手紙の書き方体験授業	手紙のやりとりを通じて、伝える力やコミュニケーション能力を育むことを目的とし、「手紙の書き方」（児童生徒用・指導用テキスト）、はがきや便せん、封筒等を提供しています。 ※日本郵便株式会社 手紙授業支援事務局Webページアドレス： http://www.schoolpost.jp/
短歌の副読本提供、 「歌人が学校に！」 等	短歌についての副読本（県立文学館作成）の提供や、全国的に活躍する歌人を招いての児童生徒が作った短歌の講評が聞ける授業等を行います。 ※群馬県立土屋文明記念文学館Webページアドレス： https://bungaku.pref.gunma.jp/



【参考】

語彙を豊かにして、自分の表現として使うために

学校生活や日常生活の中で触れる言葉を、意識的に捉え、考えていけるように、辞書的な意味の確認だけでなく、話や文章の中でも活用できるような「語彙指導」を継続的に行い、児童生徒の語彙の量を増やすとともに質を高めていきましょう。

「言葉ノート」といった言葉を書き留めるノートを用意して、いつでも記録できるような環境、分からない言葉に出合った時に自然に辞典が使えるような環境、新聞を読み比べられる環境等を意図的に作ることが大切です。

今日の**全校集会**で、校長先生が人と人との出会いのすばらしさについて話してくださいました。話の中に出てきた「一期一会」という言葉がとても印象に残った。**ノートに書いておこう。**
ほくも**使えたらいいな!**



朝読書で読んだ本の中で、男の子がおじいさんの大切なものを持ち出した時、「大目玉をくらった」ってあったけれど、意味がちよっと分からなかった。メモをしておいて、あとで**国語辞典**を引こう!



読書活動推進に向けて ～学校図書館の3つの機能～

学校図書館は、読書活動における利活用に加え、様々な学習における利活用を通じて、児童生徒の言語能力、情報活用能力等の育成を支え、主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤として、「**読書センター**」（児童生徒の読書活動や読書指導の場）、「**学習センター**」（児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする場）、「**情報センター**」（児童生徒・教職員の情報ニーズへの対応や、児童生徒の情報収集・選択・活用能力を育む場）の機能を有しています。



◎学習指導要領では、〔知識及び技能〕の指導項目に「読書」が位置付けられています。国語科の学習が読書活動に結びつくよう、学校図書館を利用する目的を明確にして、系統的に指導することが大切です。

〈指導例〉

- ・「必要な本や資料などを選ぶ力を付けたい」
→調べ学習を通して、本の種類や配置、探し方について理解する。
- ・「様々なジャンルの本に触れさせたい」
→ブックトークを通して、テーマに関連する様々なジャンルの本を紹介する。

